



# 北陸新幹線敦賀開業 未来に飛翔する敦賀市

北陸新幹線敦賀駅舎イメージ図

**北陸新幹線金沢―敦賀間が開業すると、終着駅・始発駅となる敦賀駅は、交通の要衝として大きな役割を担う。さらに、敦賀港の将来像を本県をけん引する拠点の一つと位置付け整備していくという。古くから陸上交通と海上交易の要衝として栄えてきた敦賀市は、益々飛躍するまちとなる。**

## 新たなシンボル誕生 利点を生かした まちづくり

令和6年春の北陸新幹線敦賀開業に向けて工事が急ピッチで進む敦賀市。

敦賀駅舎は全国的に珍しい3層構造の「上下乗り換え」方式を採用。乗り換えの利便性を高めるため、3階に新幹線ホーム、2階に乗り換えコンコース、1階に在来線特急ホームを設ける。

このため、駅舎の高さはマンションの12階建てに相当する約35m。自然豊かな敦賀港の波の煌めきを外観に表現し、中央の屋根はゆりかもめが飛翔する姿をイメージ。まさに、駅舎デザインコンセプトにある「空に浮かぶ」敦賀駅となる。北陸新幹線の駅舎で最も規模が大きく、敦賀市の新たなシンボルの誕生だ。

金沢―敦賀間が開業すると、東京をはじめ、大宮、高崎な

どの関東地方や長野、新潟など信越地方から、乗り換えなしで敦賀市に来訪できるようになる。特に、北陸および信越の主要駅から敦賀駅までの所要時間が大幅に短縮されるため、ビジネスでの出張や日帰り小旅行等で来訪しやすくなる。加えて、当面の終着駅・始発駅となる敦賀駅は、首都圏から京阪神・北近畿へ、また京阪神方面から信越・北関東へ向かう人々が、福井方面や小浜方面へ乗り換えを行う「交通の要衝」としての機能を持つことになる。

さらに、敦賀以西のルートが、小浜・京都・京田辺を経由し新大阪に向かう若狭ルート（小浜・京都ルート）に決定。小浜市付近に設置される新駅と京都駅の間は19分で結ばれ、関西方面からの所要時間がさらに短縮されるだけでなく、新幹線を通して北海道や九州地方ともつながる。また、敦賀駅東側の駅前広